

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：32621

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K19969

研究課題名（和文）東アジアの近代化と新儒家の 生命 概念：熊十力哲学の意義の再検討

研究課題名（英文）Modernization of east Asia and the Neo-Confucianism concept of "Life" : a reexamination of the significance of Xiong Shili's philosophy

研究代表者

胡 せい (HU, Jing)

上智大学・中世思想研究所・研究員

研究者番号：10963035

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000 円

研究成果の概要（和文）：課題を遂行し、以下のことが分かってきた。
まず、二〇世紀の中国における文化保守主義、文化急進主義、自由主義の三者は、いずれも同じ問題関心や思想源泉を共有しており、当時の時代的特徴をそれぞれのかたちで展開していたものとして理解できる。言い換えれば、これらは同じ「近代化」を画策した三つの異なる方向として捉えられるのである。この点において、熊十力の哲学思想を西洋的近代への思考から切り離し、もっぱら伝統の中国思想への追懐として扱うことが出来ない。また、熊十力の哲学のなかにある西洋哲学に関する議論は、その認識論や本体論を構築する際に重要な思想源泉であることから、西洋哲学の議論を中心にテキストを解釈した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究成果はまず、熊十力の『新唯識論（語体文本）』の「成物」章を解釈しました。この章は熊十力の哲学の発展を示したものであるにもかかわらず、十分に研究されていません。従って、文献の解釈は従来の空白を埋めると同時に、熊十力の哲学理論を説明することにも寄与できます。
そして、熊十力の哲学を二〇世紀の中国啓蒙思潮に置いて考えると、ベルクソンの哲学やカントの哲学などのような西欧の哲学は非常に重要な位置を占めていることはわかってきます。というのも、これらの理論は東アジアの伝統文脈にある自発的な近代的思维的な形成にも関連しているからです。この現象は哲学の普遍性問題を議論するさいに極めて重要なモデルとなります。

研究成果の概要（英文）：I conducted the task and discovered the following.

Firstly, cultural conservatism, cultural radicalism, and liberalism in 20th century China all shared common interests and intellectual origins, each embodying the characteristics of the era in their own ways. In other words, they can be seen as three distinct orientations striving for the same "modernization." From this perspective, Xiong Shili's philosophical thought cannot be divorced from Western modern thought and should not be solely regarded as a yearning for traditional Chinese thought.

Furthermore, the exploration of Western philosophy in Xiong Shili's philosophy serves as a significant foundation for constructing epistemology and ontology; therefore, the text was analyzed with an emphasis on discussions of Western philosophy.

研究分野：中国哲学、近現代中国思想史、現代新儒家

キーワード：中国哲学 熊十力 近現代中国思想史 現代新儒家 認識論

1．研究開始当初の背景

（１）従来の東アジアの啓蒙の試みに関する研究は、歴史的な事実や思想史的な脈絡の把握に傾いている。勿論、これらの研究は近代の東アジア諸国を理解するために非常に重要な位置を占めているが、東アジアの啓蒙の試みにある思想的近代化の問題が解決されていないまま議論されてきた。この思想的近代化のプロセスを解明することは、東アジア諸国の近代化のプロセス理解に貢献すると同時、哲学における「普遍性」や「合法性」の問題への寄与も期待できる。

（２）近年の中国哲学・思想に関する研究はほとんど前近代に集中しており、二〇世紀以降の現代中国哲学を対象とする専門的な研究が極めて少ない状態であって、ほとんどの場合はそれが社会思想や政治思想の研究に付随する形として現れてくる。現代中国哲学、とりわけ現代新儒家の哲学を研究することは、今世紀にはいって真空状態となった領域を埋めて、海外の研究と同じ水準が維持する。

2．研究の目的

（１）現代新儒家の代表者のひとりである熊十力の哲学をモデルにして、その哲学を再解釈することによって、哲学思想史における意義を再検討する。

（２）二〇世紀の中国で行われた西洋的近代と東洋的伝統に関する論争を背景に、現代新儒家の哲学に流入した西欧の哲学的議論を加え、啓蒙思潮の文脈のなかに東アジアで行われた思想的近代化の本質を把握する。

3．研究の方法

（１）熊十力の主著である『新唯識論』の「文言文本」と「語体文本」を対象にして、内容の分析と解釈を軸にしながら両者の相違を比較する。

（２）十六世紀以来の東西文化交渉活動を背景に、二〇世紀の中国思想界に流入した西欧の哲学思想の流れを整理する。さらに、同時代のベルクソンの哲学の流入に注目し、現代中国哲学に与えた影響を検討する。

4．研究成果

本研究を遂行した結果、下記のことが成果としてあげられる。

（１）従来の思想史の見解に新たな視点を取り入れた。

文化保守主義とも言われる熊十力の哲学がたんなる新文化運動に対する批判ではなかったということである。二〇世紀の中国における文化保守主義、文化急進主義、自由主義の三者は、いずれも同じ問題関心や思想源泉を共有しており、当時の時代的特徴をそれぞれのかたちで展開していたものとして理解できる。言い換えれば、これらは同じ「近代化」を画策した三つの異なる方向として捉えられるのである。したがって、熊十力の哲学を東アジアの啓蒙思潮の一部として、その意義と

（２）和訳されていない『新唯識論（語体文本）』の「成物」章を解釈し、熊十力哲学研究の発展に寄与した。

（１）の成果を踏まえて、熊十力の哲学思想を西洋的近代への思考から切り離し、もっぱら伝統の中国思想への追懐として扱うことができない。そのため、熊十力の哲学を単なる伝統の文脈から解釈する従来の見方を見直す必要がある。とりわけ熊十力の哲学のなかにある西洋哲学に関する議論は、その認識論や本体論を構築する際に重要な思想源泉である。したがって、彼の主著である『新唯識論』のなかに行われた認識論的議論を、上記の視点から捉え直した。それに加えて、『新唯識論』の「文言文本」と「語体文本」の構成上の違いを切り口にして、西洋哲学からの影響を視野に取り入れつつテキストの解釈を行った。

（３）ベルクソンの生の哲学とカントの認識論が二〇世紀以降の中国における変容について、思想史的な事実を確認しながら、その意義を検討した。

まず、東アジアにおけるベルクソンの生の哲学の展開はほぼ同じ時期に行われていたことは確認できました。しかし、中国の場合、それをスペンサーの社会進化論と結合して解釈され、文化急進主義者や自由主義者のみならず、熊十力のような文化保守主義者にも吸収されていた。現代新儒家の理論のなかに置かれたベルクソン哲学が、東洋伝統の哲学思想の内部から行われた「近代性」の芽生えに養分を注いだことがわかってきた。

また、熊十力がその独自の哲学を展開するさいにカントの認識論を取り入れたことが判明した。このとき、熊十力にとってカントの理論は、伝統の認識論（唯識論）を一新させる重要な支点となり、「物質」と「精神」の二元対立的な構造を調和するための理論である。

上記の研究成果はいずれも最新の解釈と理論であって、出版に向けて原稿を修正しているところである。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1．発表者名 胡せい
2．発表標題 熊十力《新唯識論（語体文本）》中「純粹范畴」概念的可能性
3．学会等名 中華日本哲学会2023年会（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 胡せい
2．発表標題 熊十力の本体論における 進化 の概念：ベルクソン哲学のエラン・ヴィタールを対照に
3．学会等名 第7回日中哲学フォーラム「世界哲学において東アジアが果たす役割」（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 胡せい
2．発表標題 熊十力の「純粹カテゴリー」について：新唯識論（語体文本）第七章「成物」を中心に
3．学会等名 日本中国学会第75回大会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 公開講演会「生命と思想：ベルクソンの生の哲学とその東アジアにおける展開」	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------